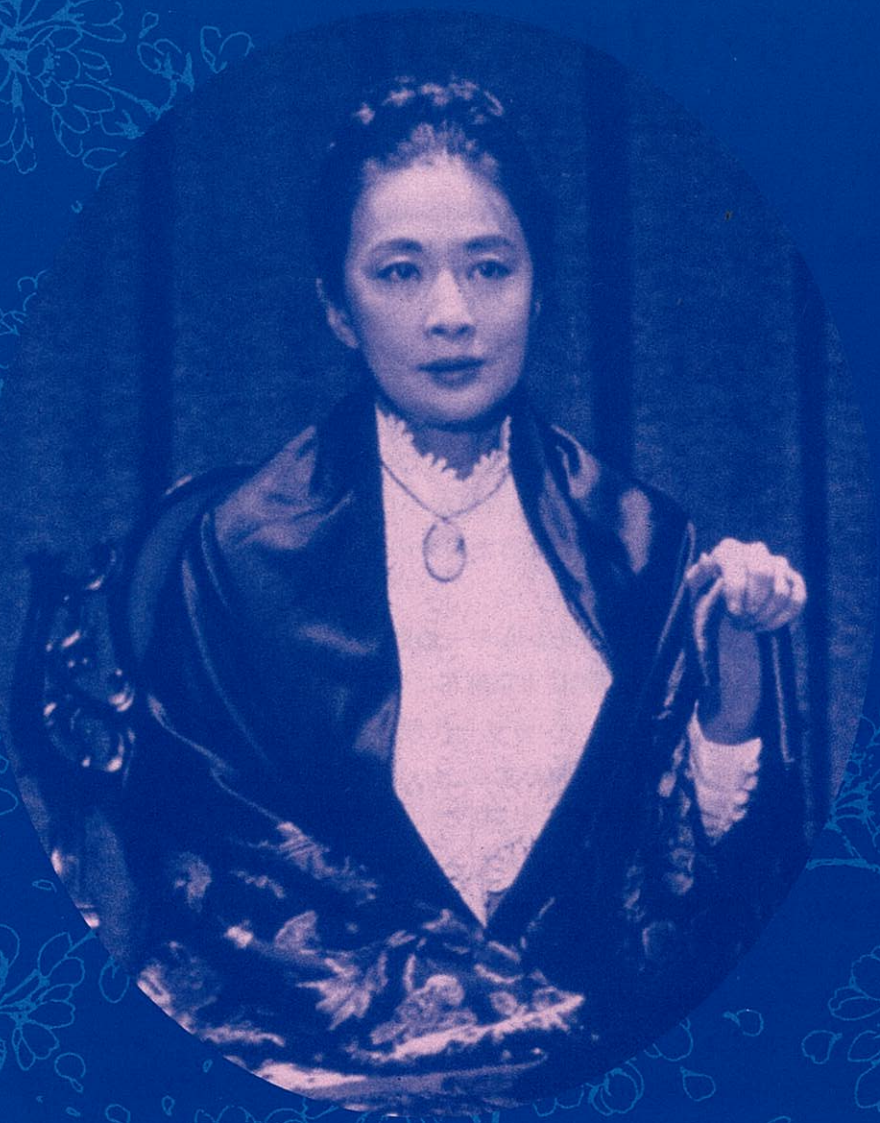
Ladies 21

ホロコピア'88 北摂丹波の祭典・たんば田園交響ホール開館10周年記念

吉行和子一人芝居

作・演出＝大間知靖子

企画制作＝ヨオの会　製作＝安澤事務所



MITSUKO

ミツコ――世紀末の伯爵夫人

1998年7月1日(水)　午後7時開演

たんば田園交響ホール TEL.0795(52)3600　主催／篠山町

入場料:3,500円　前売開始:5月1日(金)　友の会予約:4月26日(日)より

プレイガイド

篠山町内
小山書店 ☎52－0019
森本書房 ☎52－0125
木下楽器 ☎52－0321
サワヤマ楽器 ☎52－2019
みずほトラベル ☎52－5677

丹南町内
JA丹波旅行センター ☎94－3090
リブロ ☎94－0188
NEWS丹南総合サービスセンター ☎94－3700

西紀町内
西紀町中央公民館 ☎93－0334

今田町内
今田町中央公民館 ☎97－2255

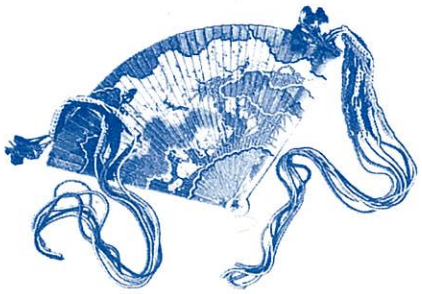
三田市内
三田サティ3Fサービスコーナー ☎64－2121

氷上郡内
柏原観光案内所 ☎73－0303
丹波の森公苑 ☎72－2128
春日町文化ホール ☎74－1050
ライフピアいちじま ☎85－3030

「わたくしは、もう日本に帰らない…」

「わたくしは、皇后さまのお言葉を守り、
遠い異国で一生懸命に生きてまいりました。
日本人の誇りを忘れず、
妻として、母としてつとめたつもりでございます。」

STORY



「キミは一人舞台が似合うんだよ」
兄・吉行　淳之介

1935年、ウイーン郊外にあるクーデンホーフ家の別荘の居間。おだやかな春の午後、50歳になったミツコが次女オルガに手記を口述筆記させている。軽い卒中を患って、右手右足が不自由になり、すっかり気の弱くなったミツコは数奇な運命を生きた自分の生涯を振り返るのであった。

ミツコ・クーデンホーフ・カレルギー伯爵夫人。
旧姓・青山光子は明治7年に東京麻布に生まれた。
ミツコは、オーストリア・ハンガリー代理大使のハインリッヒ・クーデンホーフ伯爵と運命的な出会いをする。――ミツコ、19歳の時である。
さまざまな困難を乗り越えて固い意志で国際結婚をし、西ボヘミアのロンスペルクで7人の子どもを育てあげた。そして、日本人の誇りを忘れず、妻として、母として、徐々に伯爵夫人として成長していくのである。

ミツコが32歳の時、最愛の夫が急死。
一人異国に残されたミツコは、子どもの教育に全てをかけ、それぞれ立派に育てた。中でも次男のリヒャルトはEC・ヨーロッパ共同体の基本思想となった「パン・ヨーロッパ」運動の主唱者として世界的に有名になり、ミツコは「ECの母」と呼ばれた。

日本に帰ることのなかったミツコは生涯日本を愛し、日本を忘れることがなかった。ゲラン社の香水「ミツコ」は彼女をイメージして作られたものである。

■美術コーディネーター ―― 朝倉摂
■照明 ―― 田中喜久夫
■きもの提供 ―― 丁子屋・小林つた
■衣装 ―― 鳥居ユキ
■音響 ―― 深川定次
■舞台監督 ―― 浅田要

■協賛 ―― ゲラン株式会社／レンゴー株式会社
■後援 ―― クーデンホーフ・カレルギー財団
■企画制作 ―― ヨオの会
■製作 ―― 安澤事務所

明治という時代に日本人として初めて外国人と結婚し、さまざまな困難の中、異国で誇り高く生き抜いた「ミツコ」。自由に生きることが許される今、私達は、彼女の生き方に深い関心を覚え、この芝居を取りあげました。

レディース21